

実施学年	2年	実施教科 (科目)	国語	実施日	H24. 11. 20
単元名	仁和寺にある法師 - 「徒然草」から-				
本時の内容 (項目)	「仁和寺にある法師」の話の中で、勘違いから石清水八幡宮に行くことができなかった法師の失敗と、兼好法師が仁和寺の法師の勘違いをどのようにみているかをとらえる。				
本時の目標	「仁和寺にある法師」を読み、仁和寺の法師が極楽寺と高良神社を石清水八幡宮だと勘違いしてしまったことを読み取ることを通して、「少しのことにもその道の先導者はあってほしいものだ」という作者の考え方を理解することができる。				
授業場所	2年1組教室	ICT活用時の 授業形態	一斉学習・個別学習・グループ学習		
ICT活用場面	導入・展開・まとめ・他( )		ICTの主な 活用者	教師・生徒	
活用するICT 機器	電子黒板				
ICTを活用する 目的・ねらい・予想される 効果	古文の内容理解を苦手とする生徒が多い。電子黒板を活用し、紙芝居を映像で流しながら、映像と古文・映像と現代文の二種類の読み方で内容を提示することで、場面をイメージしやすく、内容の理解もしやすくなると思った。				
児童生徒の情報活用能力を 育てる指導場面・指導内容	全体交流の場で、法師がしてしまった失敗とはどんなことかを説明する時に、寺社の位置関係の地図を用いて説明したり、本当に行きたかった場所や実際に行った場所を書き込んだりしながら、発表をさせた。				
利用するコン テンツ名・サ イト等	特になし				
参考にしたサ イト・文献 等	・岐阜県版国語便覧 2005年12月15日発行 編著者 岐阜県中学校国語資料研究部会 浜島書店編集部 発行所 株式会社 浜島書店				
事前の準備	・紙芝居作り(場面に応じて書く) ・実際の寺社の写真(撮りに行ったもの) ・紙芝居をスキャナで取り込み、パワーポイントを作成する ・パワーポイントで寺社の位置関係がわかる地図を作成する ・「仁和寺にある法師」の現代語訳を作る(分かりやすい文)				

<p>指導計画（授業の展開）</p>	<p>1 本時の内容をとらえる。 一回目は古文のみを範読し、二回目は映像を映し出しながら現代語で昔話のように語って聞かせる。</p> <p>2 課題を提示する。 この法師は、どんな失敗をしたのか。</p> <p>(1) 自分なりの考えをもつ。【個人】</p> <p>(2) 互いの考えを交流する。【一斉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当は石清水に行きたかったのに、極楽寺と高良神社だけを見て帰ってきてしまったこと。</li> <li>・極楽寺と高良神社が石清水であると勘違いしたこと。</li> <li>・知らないのに一人で行ってしまったこと。</li> <li>・山の上に登っている人がいたのに聞かずに、自分の思い込みで行動してしまったこと。</li> </ul> <p>3 失敗しないためにはどうすればよかったかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験者と一緒に行くか、きちんと情報収集した上で行けばよかった。</li> <li>・自分の思い込みで行動せず、その場で誰かに聞けばよかった。</li> </ul> <p>4 本時の学習をまとめる。 法師の失敗は、石清水がどこにあるかを知らないのに、たった一人で行き、結局行きたいと望んでいた場所に行くことなく帰ってしまったことだ。誰か案内役をしてくれる人と一緒に行けばよかった。</p> <p>5 学習した内容を思い浮かべながら音読する。</p>	<p>(※情報モラルの指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●電子黒板に映像を映し出し、内容理解と個人追究の手がかりにさせる。</li> <li>●電子黒板に寺社の地図を映し出し、書き込みをしながら位置関係を説明させる。</li> </ul> <p>【評価規準】</p> <p>B：本文の内容を捉えており、法師の失敗やその理由を理解している。</p> <p>評価方法・ノート</p> <p>Bに達しない生徒への手立て：現代語訳の補足をする。三つの寺社の位置を電子黒板で個別に確認する。</p>
<p>ICTを活用した授業時の教師側（指導上）の留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作で手間取ることがないように、事前練習を行うこと。</li> <li>・生徒が電子黒板を用いて説明することができるように、書き込みができる挿絵を準備しておくこと。</li> </ul>	
<p>ICTを活用した授業時の児童生徒の反応</p>	<p>数学や理科等の授業では普段から電子黒板などのICTを活用しているが、国語の授業で用いたのは今回の単元が初めてである。生徒たちは、どのような目的や場面で使うのかの方に初めは興味が向いていた。積極的に吹き出しを動かして、その下に隠された寺の名前を確認して内容理解に役立てたり、三つの寺の位置関係や法師のしてしまった失敗を、電子黒板上の地図に書き込みをし、説明したりする意欲的な姿が多く見られた。</p>	

ICT を活用した授業後の評価（実践の手応え）	映像を出さずに古文だけを読んだときには、「内容がよく分からない」とつぶやく生徒が多くいた。しかし、場面の内容を表したイラストを紙芝居のようにコマ送りで動かしながら古文と映像、現代語訳と映像とで合わせて読んでいくことで、古文での内容がどんな場面であるかをイメージしやすく、課題提示後、法師がしてしまった失敗についてすぐにノートに記述する姿が多く見られた。また、電子黒板を用いて説明をしようと積極的に挙手する姿も、普段よりも多くあった。
今後の課題	古典の単元の内容理解のために紙芝居を作成し、電子黒板で提示したが、現代文の単元ではなかなか活用ができていない。どの単元でどのように I C T を活用させるとその単元の内容の理解がより深まるのかを、もっと考慮していく必要がある。「仁和寺にある法師」を皮切りに、まずはどの学年でも古典の単元で活用していけるように、年間の単元指導計画から見直していきたい。

※情報モラルを指導したときは、その指導事項及び指導内容を記入する。